

## 松岡家住宅の持続的な活用をめざした事業モデルの創出

### (「文化財の保存と活用」の嘉麻市モデルの創出)

#### ■ 背景と問題意識

嘉麻市は筑豊の中でも「文化財が多いまち」、「歴史豊かなまち」として、近隣の自治体からは羨望されることが多い。しかし、福岡県の中では、本市は文化財行政の先進地ではなく後進地である。「文化財が多い」＝「文化財行政の先進地」という図式は必ずしも成り立たつものではなく、定住人口、交流人口が多い自治体、財政的に余裕のある自治体などの方が文化財行政においても先進地となる傾向が強い。過疎地域で財政基盤が脆弱な嘉麻市では、文化財の保存や活用（観光資源としての利用など）が思うように進んでいないのが現状である。

実際、嘉麻市として未だ解決できていない「文化財保存・活用」案件の一つが、松岡家住宅である。

松岡家住宅は、嘉麻市上山田地区に所在する。現在の住宅は、江戸時代（1805年）に建てられ、明治時代の改修を受けた古民家として知られていた。平成26～28年に福岡県内の庭園調査が行われ、松岡家住宅の庭園が高い評価を受けたことを機に、平成30年に地元から市に庭園と建物の保存についての陳情書（署名315名）が提出された。現在、庭園については福岡県の指定文化財（名勝）として、住宅については、国登録有形文化財（建造物）としての保存の可能性を地元と協議しながら検討しているところである。

ただ、松岡家住宅は文化的価値が高いとはいえ、現在所有者本人が一人で居住し、家の修理や庭掃除などの日常管理も行っている個人の家屋である。その所有者も高齢のため近い将来福祉施設等への入居を考えており、後継者である家族は地元におらず、現所有者が施設へ入居した後は家族側に家屋として継続利用する意向がないことから、何もしなければいずれ空き家となり消失することになる。

本物件が文化財として地域に残るためには、現所有者の後継者として、何等かの形で松岡家住宅を日常管理・運営し、メンテナンス費用を負担する主体者が現れることが必須である

ほか、それが地元にとっても有益な目的で活用され続ける必要がある。

所有者と家族は、本物件が地元のために役立つのであれば、第三者が居住したり、住宅以外の目的で利用したりすることもやぶさかではないとの意向も持っていることから、市としても、適切な第三者をいち早く見出し、地元のまちおこし・まちづくりに貢献する形での松岡家の保存・活用ができる道筋を立てたいと考えている。

なお、松岡家住宅が所在する上山田地区は市の東南部に位置する。本地区は、江戸時代までは人口 350 人程度の小さな農村であったが、明治 28 年に中央資本である三菱が鉱区を取得し、炭鉱開発を推し進めたことで、外部から多くの人々が移住し「炭鉱のまち」として急速に発展した。明治 34 年には鉄道が敷かれ、行政機関や商店街、映画館、大衆劇場などの娯楽施設も設置されるなど、上山田地区は旧山田市の政治経済の中心を担った。しかし、昭和 30 年代以降、国のエネルギー政策の転換により筑豊の炭鉱が次々と姿を消していく中で、昭和 45 年には上山田地区の炭鉱も閉山となり、石炭輸送を担った鉄道も昭和 63 年には不採算路線として廃線となった。

上山田地区の炭鉱閉山後の人口流出は著しく、かつての炭鉱の影響もあって商業を営む人が多いまちではあるが、現在の人口は約 4,890 人と最盛期の 1/3 以下まで減少。高齢化も進んでいる。

近年では、こうした現状を改善しようと、下記のとおり上山田地区で「まちおこし」、「まちづくり」に新たに取り組む人々も増えてきているが、これまでのところ、松岡家住宅の保存・活用方法について、下記のようなまちおこし・まちづくり関係者たちと議論したことはない。

・弥栄神楽座: 新たな伝統神楽を作りたいと地元神職が芸術関係者と地元住民に呼びかけ神楽座を設立、メンバーは、嘉麻市住民を中心に小学生から 50 代まで、スタッフを入れると 40 名ほどになる。射手引神社で年一回（5 月）の神楽の奉納を行っているほか、老人会、福祉施設、まちのイベントなどでも依頼があれば神楽を舞っている。

・山田ブギウギまつり実行委員会: 市内外の人たちに上山田商店街のことを知って

もらおうと、地元住民や商工関係者などをつくる実行委員会で、12月に行われる商店街の恵比須祭りに合わせて、歩行者天国や特設ステージでの演奏会などを催している。

・山田さくら会：地域の活性化と環境整備を目的に活動している市民ボランティア団体で、夏季には「竹灯かりの路」と題して、竹灯籠の屋外展示や演奏会などを催している。

・小さな拠点づくり形成委員会：「高齢者に優しいまちづくり」、「人々が集いふれあう事ができる場の創造」を大きなテーマに、上山田地区の地域将来計画の策定を進め、「ふれあい広場」の設置、買い物支援、特産品の開発などを検討している。

本市としては、「上山田地区のまちづくりの一環として、松岡家住宅の活用が持続的に行われること」を最終目標としたいと考えており、松岡家住宅が上山田地区のまちづくりの一環として欠かせない資源となる世界を目指したい。

以上を踏まえ本プロジェクトでは、上山田地区のまちづくりのなかで松岡家住宅が効果的な役割を果たし続けるためには、誰が主体となり、どのように維持保存・活用されるべきなのか、地元ニーズを踏まえながらも、既成概念にとらわれない発想で、革新的かつ効果的な事業モデルをご提案いただきたい。

## ■ 本プロジェクトで検討・提案いただきたいこと

○上山田地区の「まちづくり」は、今どういう状況にあり、今後どのような地元ニーズや課題を解決していく必要があるのか。地元住民・まちづくり関係者に丁寧にヒアリングを行い、地元住民やまちづくり関係者にとって、最も関心が高く優先度の高い本質課題は何か、丁寧に深掘りして構造化いただきたい。

- 具体的な聞き取り調査対象者としては、以下を考えている。

- ・松岡家住宅の所有者と家族
- ・行政区長
- ・松岡家住宅の保存活動関係者
- ・文化財ボランティア関係者（市の事業をサポート、上山田地区在住者も参加）
- ・山田さくら会/小さな拠点づくり形成委員会の関係者（P 2を参照）
- ・弥栄神楽座の関係者（P 2及び参考資料のP2を参照）
- ・商店街/商工会関係者（P 2及び参考資料のP2を参照）
- ・旅館常盤館の関係者（参考資料のP1を参照）
- ・上山田獅子組の関係者（参考資料のP1・2を参照）

○また、上山田地区の住民にとって、「松岡家住宅」とはどのような存在で、まちづくりに貢献する資源としてはどんな潜在的な可能性を秘めているのか。所有者や住民の方々へのヒアリングや現地調査、他自治体の文化財のまちづくり活用事例調査などを通じて、松岡家もつ「まちづくり」に貢献しうる物理的・地理的な有形資産/文化的・精神的な無形資産について紐解き、見える化・具体化していただきたい。

○上記を踏まえたうえで、松岡家の維持保存・活用方法として、どのような事業モデルを目指す必要があるか（何のために、どう活用するのか）、またその主体者となって松岡家の維持・管理を行う候補者とは（誰）なのか、これまでにない斬新な発想で、革新的でありながら実効性のある、文化財活用とまちおこしを融合した「嘉麻市モデル」のご提案を頂きたい。

- 事業モデルの検討にあたっては、松岡家住宅の維持管理に関わる下記の課題を解消できる、画期的な仕組みを考えていただきたい。
  - ・行政が松岡家住宅を主体的に維持管理していくことは困難であること。
  - ・所有者が高齢で地元の後継者がいないため、所有者に代わる維持管理主体者を考える必要があること。
  - ・電気代、水道代、し尿処理料代、庭園管理等の日常経費については、維持管理主体者が負担する必要があること。

- ・建物の老朽化が進んでいるため定期的なメンテナンスが必要となること（※修理等に対しては行政の補助制度あり）。

- ・松岡家住宅の保存活用方法が、地元ニーズにも合致しており、まちづくり関係者から高い支持を得られる必要があること

- なお、目標達成のために行政が行える施策としては以下のとおりである。

- ・指定文化財、登録有形文化財として法令に基づく保存措置をとること。

- ・嘉麻市文化財保存活用地域計画に位置付け法定計画として定めること

- ・管理・活用等に対する補助・助成

- ・松岡家住宅の周知・広報活動の支援

- ・イベント等への人的支援

- ・本プロジェクト実現に向けて動ける市の予算・リソースとしては、一般的な文化財保護事業の補助金（数万円から数十万円単位）をまずは念頭においていただきたい。

- その他の検討いただきたい制約条件、前提条件は以下のとおり。

- ・現所有者に代わる管理運用主体は、個人であっても事業体であっても構わない（地元住民・地元企業如何も問わない）

- ・活用事業モデルは、所有者および地元住民の支持を得たうえで、概ね1年以内に実行可能な仕組みを念頭においていただきたい

- ・国登録有形文化財（建造物）となった場合でも、住宅内装の改修は可能である。

## ■ 参考資料

上山田地区の主な文化財・地域資源等